



- 第16号 -

発行/岐阜県立恵那高等学校同窓会
所在地/岐阜県恵那市大井町1023-1
〒509-7201
TEL・FAX:0573-25-0253
E-mail:c27331@gifu-net.ed.jp
発行責任者 阿部 伸一郎

末松安晴博士が、 2015年度の文化勲章を受章



平成27年10月30日、政府は2015年度の文化勲章に末松安晴博士(東京工業大学名誉教授、国立情報学研究所名誉教授、元国立情報学研究所長)ら7人を選びました。他の受章者はノーベル医学生理学賞の北里大学特別栄誉教授の大村智氏、同物理学賞の東京大学宇宙線研究所長の梶田隆章氏ら6人。博士の受賞理由は、『今や一大分野となった光通信工学をその萌芽期から育成すると共に、その境界領域の発展に多大な貢献をしたこと。』です。

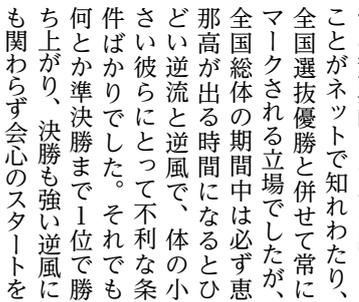
文化勲章は、我が国の文化の発展や向上に関して顕著な功績のあった者に対して授与される勲章で、11月3日の文化の日、宮中において天皇陛下から親授されました。末松先生の研究内容について一部を紹介します。

先生は、光ファイバーの損失が最小となる波長の光を発生し、かつ高速変調時に波長変動が抑制できる半導体レーザーを実現して、インターネットをはじめとする大容量長距離光ファイバー通信に道を拓きました。先生は、光ファイバーを使用する高性能伝送システムを早くから提唱し、実現すべきシステムから必要とされるレーザーの特性を定めて、理論から材料までの広範な分野をカバーした工学的アプローチで大容量長距離通信用途の半導体レーザーを開発を先導しました。まず1974年に位相シフトを有する周期的構造を用いた反射器を半導体レ

ザーに集積することを提案し、高速変調時に発振波長が安定する動的単一モードレーザーの概念へと発展させました。並行して、光ファイバーの損失が最小となる1.5μm帯で発振するInGaAsPレーザーの室温連続発振を実現しました。1981、83年には、これらの技術を組み合わせ、位相シフトを有する反射器を集積したInGaAsPレーザーを1.5μm帯で室温連続発振させ、動的単一モード動作を世界で初めて実証しました。当初、集積レーザーは技術的に難しいとみられていましたが、先生はこれを覆して大容量長距離光ファイバー通信への道を拓かれました。現在、動的単一モードレーザーは、大容量光ファイバー通信の光源として、陸上光幹線、大陸間海底光幹線に遍く使われています。本校では毎年、理数科1

年生を対象に、先生の歩まれた足跡を通して光通信技術の進歩を理解しながら、研究に対する姿勢や科学に対する興味・関心を広げることが目的にSSH開講式記念講演を行っていただいています。平成27年度は「研究は未来を引き寄せる」という演題で講演いただき、研究とは先人達の肩に乗って行うものであること、研究が成り立つための現実的な側面について、電磁気学の歴史とご自身の研究の軌跡をひもときつつ語られました。そして、何よりも、先生の語りかけはいつも、恵那高生や恵那高校への限りなく深い愛情と期待に満ちており、先生の人間性の素晴らしさに感銘を受けずにはられません。このように、恵那高校と恵那高生にとって、人生の大きな目標となる同窓生の一人、末松安晴先生の文化勲章の受章に、心からお祝いを申し上げます。

《略歴》
末松安晴氏
(すえまつ やすはる)
坂下町(現在は中津川市坂下)出身。中津川市名誉市民。恵那中学(旧制)入学。東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了後、東京工業大学助教、教授、工学部長を経て平成元年から平成5年東京工業大学学長。専門は光通信。岐阜県立恵那高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員



春の全国高校選抜大会初優勝
昨年3月に浜松市天竜漕艇場で行われた第26回全国高校選抜大会は、前日の大雨で開催が危ぶまれるほどでしたが、急遽コースを1000mに短縮して一日で決勝まで終える日程に変更され、昨秋の県新人大会や中部選抜大会の1000mレースで好タイムを出し

全国インターハイ準優勝
昨年8月初め、兵庫県北部の円山川漕艇場で行われた全国高校総体でも、恵那高クルーは、惜しくも準優勝となる大活躍でした。大会前、東海総体で3分3秒台の驚異的タイムを出したことがネットで見られたり、全国選抜優勝と併せて常にマークされる立場でしたが、全国総体の期間中は必ず恵那高が出る時間になるとひどい逆流と逆風で、体の小さい彼らにとって不利な条件ばかりでした。それでも何とか準決勝まで1位で勝ち上がり、決勝も強い逆風に

**ボート部男子、団体種目で
全国選抜優勝、全国総体で準優勝**

今まで何度か全国大会で優勝実績を重ね、来年創設55周年を迎えるボート部ですが、今年度の男子舵手付クオドルプルは、その歴史に金字塔をうち立てました。春の全国選抜大会を征し、夏の全国インターハイでも準優勝を果たしたのです。クルー(乗組員の意)は、部長で3番の朝日崇登、整調の土屋政智、2番の片山颯汰、バウの石田光来、舵手の長谷川駿の5人。いずれもこの3月の卒業生です。

優勝候補に挙げられていた恵那高にとって、幸運な展開となりました。予選も、決勝も、スタートから一気には飛び出して勝負を決める横綱相撲でこの種目初の全国制覇を成し遂げました。この優勝を祝して、新校舎の正面には「祝 全国大会優勝」の横断幕が掲げられました。

決めてゴール直前まで1位で漕ぎつけました。しかし、レーンが最も逆流の強い位置だったことも災いして失速、4月の大会で敗れた宿敵の大阪清風高校に僅差で春夏連覇を阻まれました。ボート部にとって過去3度も全国総体で準優勝している4人漕ぎ種目ですが、またも準優勝となりました。全国総体優勝という目標は、後輩達に受け継がれることとなりました。



陸上競技部 全国高校総体出場

2年生の園原晶さんが8月2日に和歌山県紀三井寺公園陸上競技場で行われた全国高校総体に出場しました。6月の東海高校総体の100メートルハードルで5位に入賞し、念願の初出場を果たしました。自身にとって昨年の長崎国体出場(8位入賞)に続く2年連続での全国大会出場となりました。初出場ながら堂々とした走りっぷりで予選を突破し、見事に準決勝に駒を進めることができました。

2年生で全国高校総体を経験できたことは、自信を得るだけでなく大きなアドバンテージになります。来年度は高校生活集大成の年。念願の「全国高校総体入賞」を目標に、園原さんはモットーである「諦めない、強くなりたい、限界を超えたい」を胸に日々精進しています。園原さんの夢の実現に向けて期待は高まるばかりです。

今年度本校に在学する生徒の中で、最も顕著な活躍が認められた生徒を表彰する「Student of the Year賞」の表彰式が、平成28年2月29日(月)14時から、恵那高校第一体育館で、全校生徒・職員の前で行われた。

この表彰は、平成19年度から同窓会が行っている事業の一つで、表彰式では、阿部伸一郎同窓会長から表彰状・副賞が代表者に手渡された。表彰された生徒は、次のとおりであった。



平成27年度
Student of the Year賞
生徒13名と1団体が輝く!

今年度本校に在学する生徒の中で、最も顕著な活躍が認められた生徒を表彰する「Student of the Year賞」の表彰式が、平成28年2月29日(月)14時から、恵那高校第一体育館で、全校生徒・職員の前で行われた。

この表彰は、平成19年度から同窓会が行っている事業の一つで、表彰式では、阿部伸一郎同窓会長から表彰状・副賞が代表者に手渡された。表彰された生徒は、次のとおりであった。

- 園原晶さん(23組)は、平成27年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会秩父宮賜杯第68回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 女子100mH(ハードル)に出場した。
- 栗原皐さん(36組)は、平成27年度第63回岐阜県高等学校総合体育大会兼東海高等学校総合体育大会水泳競技大会岐阜県予選会水泳女子100m自由形に出場し、優勝した。
- 朝日崇登さん(35組)は、第26回全国高校選抜ボート大会男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成27年度全国高等学校総合体育大会に準優勝した。
- 石田光来さん(34組)は、第26回全国高校選抜ボート大会男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成27年度全国高等学校総合体育大会で準優勝した。
- 土屋政智さん(31組)は、第26回全国高校選抜ボート大会男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成27年度全国高等学校総合体育大会で準優勝した。
- 長谷川駿さん(33組)は、第26回全国高校選抜ボート大会男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成27年度全国高等学校総合体育大会で準優勝した。
- 片山颯汰さん(35組)は、第26回全国高校選抜ボート大会男子舵手付クォドルプルで優勝し、平成27年度全国高等学校総合体育大会に準優勝した。
- 伊東佑花さん(34組)は、平成27年度岐阜県高等学校総合体育大会兼全国・東海高等学校総合体育大会岐阜県予選女子ダブルスカルで優勝し、全国高等学校総合体育大会に出場した。
- 長瀬歩さん(35組)は、平成27年度岐阜県高等学校総合体育大会兼全国・東海高等学校総合体育大会岐阜県予選女子ダブルスカルで優勝し、全国高等学校総合体育大会に出場した。
- 林侑加さん(22組)は、平成27年度岐阜県高等学校総合体育大会兼全国・東海高等学校総合体育大会岐阜県予選女子シングルスカルで優勝し、全国高等学校総合体育大会に出場した。また平成27年岐阜県高等学校新人大会兼第28回中部高等学校選抜競漕大会岐阜県予選女子ダブルスカルで優勝した。
- 平松愛華さん(26組)は、平成27年岐阜県高等学校新人大会兼第28回中部高等学校選抜競漕大会岐阜県予選女子ダブルスカルに出場し、優勝した。
- 羽柴緋菜さん(22組)は、平成27年岐阜県高等学校新人大会兼第28回中部高等学校選抜競漕大会岐阜県予選女子ダブルスカルに出場し、優勝した。
- 野々村真白さん(11組)は、第36回岐阜県高等学校放送コンテスト朗読部門で優勝し、平成28年度全国高等学校総合文化祭に出場することが決定した。
- ボート部は、平成27年度第62回東海高等学校総合体育大会ボート競技会男子の部で、総合優勝した。

同窓会報「城陵」について

平成13年より創立80周年記念事業に向けて発行が始まった本紙は、多くの同窓生の方々の協力金(1口2,000円)に支えられ、発行を続けてまいりました。昨年度は、会報発行のための協力金の寄付者が700口を超え、今回、第16号の発行が実現できました。ご寄付をしてくださりました方々に、改めて深く御礼申し上げます。同窓会報「城陵」は皆様の寄付によって支えられております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会報協力金振込先

会報協力金口座(株式会社同窓会事務局代行)口座
ゆうちょ銀行
岐阜県立恵那高等学校同窓会 □座番号 00170141300048

城陵論壇

昨年5月に開催された恵那高校同窓会総会において会長職を拝命致しました。高校27回生の阿部伸一郎です。地域屈指の伝統校の同窓会長という重責を担うに当たり、身の引き締まる思いであります。どうぞ宜しくお願い致します。

前任の市川康夫先輩には、副会長職を含め概ね20年もの長きに渡り本校並びに同会の発展に甚大な貢献を賜りました。同窓生を代表し、衷心より御礼を申し上げます。

こんな言葉があります。「封建主義の時代の人々はそこそこ幸せだった」―地位が上がることなどあり得ないので出世しようとは考えず、そこそこの努力をしていればよい、ある意味気楽に暮らせた、と。乱暴な言い方に思えますが、努力が報われる可能性のある時代では、努力しなければいけないことの裏返しを述べているのかも知れません。

先日「SSH事業」「サイエンス・ダイアログ」で招いた海外の若手科学者が母国と日本人の違いについて問われ、「日

はじめに、同窓会への理解を深めて頂きたく、その組織を簡単に説明致します。当同窓会は、この度私が会長に就任した本校内に事務局を置く本会に加え、東京、名古屋、土岐、瑞浪、中津川の5つの地域と定時制組織の合計6つの支部から成っております。数年前までは恵那支部を設けておりましたが、学校のお膝下であることから本会と一体化することと成りました。右記の6支部は、それぞれのまちで、それぞれの人生を送る同窓生が卒業年次に関係なく、ただ母校への思慕の念と言う共通項をもとに一堂に会しうるオ

本人は努力と過程を評価し、自分の国では結果を評価する」と述べていました。よく言われることですが、程度の問題ではあるでしょう。努力や過程なしに結果は出ないし、結果を出すために努力をします。ただ、努力すれば結果が出なくてもやむを得ないと考えたり、失敗したときに努力したかどうか問われることもあります。やみくもに努力して効率や結果を考えないから生産性が悪い、などと揶揄されもします。特に教員は「あと一時間頑張れば1点伸びるかもしれない」と考えがちです。それによって失うものものことも考えなければいけないのかも知れません。生徒や自分の努力が結果につ



アシス的な価値ある存在となっておりまます。そうした場を関西にも、或いは他の地にも、との声を耳にします。同じ城陵の地で学んだ者同士が、老若男女を問わず

ず安穩として集いうる空間の広がり故郷を離れて暮らす同窓生共通の願いであると存じております。新たな支部の実現化には本会も全力で支援させて頂く所



ながることを意識した指導を心がけたいと思えます。公職選挙法の改定で十八歳の高校生が選挙権を持つことになりました。高校生の政治参加についての議論も高まり、長

い間政治への関わりが少なかった高校にとっても大きな転機です。在学中の十八歳までに、社会の一員として政治に参加できる「大人」を育てなければなりません。これまでも総合学習や

会長就任のご挨拶

阿部伸一郎

恵那高等学校同窓会会長

存であります。是非、ご要望をお寄せ下さい。さて、我々の母校である恵那高校は大正11年、1922年に県下8番目の中学校として開校された旧制恵

現在の恵那文化センターの地にあった恵那高等実科女学校が統合し岐阜県立恵那高等学校と命名され今日に至っております。恵那中学の創立から数え

のとして来ました。この誇り高き恵那高校は、6年後の2022年に晴れて創立100周年を迎えます。この一大事業を成功に導き、母校と同会の更なる発展に尽力せよ、と言ったのが、この私に与えられた使命と受け止めております。大変微力で至らぬ会長ではありますが、拝命した以上は不借身命を貫き、この大任を果たして行く所存であります。何卒、皆様方のご支援を賜らんことをお願い申し上げます。

努力・結果・効率・失敗

谷口陽一郎

恵那高等学校校長

SSH事業などで、課題発見能力や課題解決能力の育成をめざしてきましたが、まさにそうした能力を現実発揮する場が与えられます。授業や講演、模擬選挙等だけでなく、生徒

遠足の行き先を生徒が決めていたそうですね。と。そうした時代があったと思います。生徒総会で部活動予算が活発に審議されていたのを思い出します。今、生徒が決めたこと

主義は時間がかかる、効率の悪いものです。失敗を恐れるな、失敗から学べ、失敗は財産だ。失敗を肯定的にとらえることばがたくさんあります。一方、努力している生徒に失敗させたくない、限られた時間を効率的に使わせたいという気持ちにもなります。それによって生徒が失敗する機会を奪っているのかもしれない。今回の法改正を機会に本当の成長について考えてみたいと思います。

会活動やボランティア、部活動など様々な場面で成長していくことが一層必要になります。先日、生徒会執行部の皆さんと話をした時に言われたこととです。「以前恵那高校では、

を生徒が実行する機会は多くありません。生徒の意見を聞きながら決めていくよりも経験に基づいて教員が決めた方が失敗が少ないし、効率が良いからかも知れません。民主

同窓会の皆様には、ひたむきに努力している生徒たち、悩みながら指導している教員たちをこれからも暖かく見守り、応援をよろしくお願いいたします。

創立記念講演 井口嘉則さん (高校27回生)

「夢・目標をリアルに持とう」

―バックキャスト型発想で実現性を高める―



今年度の創立記念講演会では、本校の高校27回生の井口嘉則さんに講師としてお話をいただきました。現在、オフィス井口の代表兼株式会社ユニバーサル・ワイネット代表として、経営コンサルティングを中心にご活躍なさっています。講演会では、「夢・目標をリアルに持とう」をテーマに夢や目標を持つことの大切さについてお話をいただきました。

井口嘉則さんは、本校卒業後、東京大学を卒業なされた後、日産自動車株式会社、株式会社三和総合研究所、フューチャーアーキテクト株式会社などで第一線に立ちご活躍されました。2008年に独立され、オフィス井口を設立し、代表に就任されています。また、ユニバーサル・ワイ・ネットの代表取締役として現在に至っています。



講演会は、先生のお話のほか、生徒たちが大きな夢の具体化に向けて、自分が将来どのような姿になりたいかなどの「したい」の記入をするなど、生徒たちが演習できる構成になっていました。講演会の初めには、本田圭佑選手が小学校六年生の時に書いた卒業文集の例を出され、不可能だと思っても、目標を持ち実現に向けて努力していくことで、夢の引き寄せ効果が起り、実現できるというお話をしてくださいました。また、坂本龍馬、高杉晋作、松下幸之助など先人たちの例を出され、思いや志があるから勉強を頑張ることができる、それを他人からではなく、自分から持つことが必要であると述べられていました。

あると述べられていました。普段、多くの人たちが夢、将来に対して、現状から将来へ繋げていこうと発想する人が多いが、そうではなく、まず将来において自分がどうなりたいかを描き、そこから引き戻して現状分析を行い、今の自分に何が必要なかを考え、実行に移していくことが重要であるとおっしゃっていました。

最後にまとめとして、自分の願望をどう実現するか具体化し、大きな夢を描き、自分自身や人を感動させることができるストーリーを描き、その夢の達成のために小さい夢を一つずつクリアしていくことで、結果として大きな夢が実現できると述べられていました。

将来の夢に対して、途中で諦めてしまったり、努力することを止めてしまったりする人が多いですが、そうではなく常に夢を追いつづけ、その

夢に対してしっかりと現状を分析し、自分と向き合うことの大切さを学べたと思います。今日から頑張ろうという思いを新たに持ち、一歩前に

踏み出す勇気を与えてもらえる講演会でした。この講演会を通して、前向きに頑張っていこうと思えた人もたくさんいると思います。

活躍する同窓生

スペイン外科学会 名誉会員に推挙

名古屋セントラル病院 院長
名古屋大学 名誉教授
中尾 昭公 先生
(高校18回生)



本校創立90周年記念式典でも記念講演をいただき、また図書館に中尾昭公文庫

をご寄付いただくなど、多大なご支援を賜っております。中尾昭公先生(高18回)が、このたび、スペイン外科学会名誉会員に推挙され、その授与式が、平成27年10月に、スペイン・グラナダで行われました。これは、中尾先生のこれまでの数々のご業績を讃えて、スペイン外科学会により推挙されたものであります。中尾先生はこれまで、

「万国外科学会 Poster Prize」、「一般社団法人日本癌治療学会中山恒明賞」をはじめ、国内外で数々の賞を受賞されており、このたびのスペイン外科学会名誉会員への推挙は、さらに先生のご業績を輝かせるものとしてお祝い申し上げます。



大阪大学基礎工学部賞受賞

大阪大学大学院基礎工学研究科 博士前期課程 物性物理領域
鎌田 果歩 さん
(高校63回生)

私は平成27年の春、大阪大学基礎工学部電子物理科学科物性物理コースを首席で卒業し、卒業式では基礎工学部の総代として壇上へ上が

らせていただきました。大阪大学基礎工学部賞を受賞し、小さな括りの中ではありますがトップを取れたということは、自分自身への自信に大き

くつながりました。そこで私が後輩であるみなさんに伝えたいことは、「恵那高生はすごいんだから、自信を持ってね！」ということなんです。実は私は高校三年生のとき、自分の志望校に対して、高いレベルを狙いすぎているのではないかと不安を抱えてお

り、なかなか受験勉強一本に集中できないことがあったので。(日本中には名立たる進学校や大手予備校に通っている賢い受験生たちが山ほどいるのに、私が合格できるのかなあ、なんて思ったものでした。)結局、自分を信じ切れずに第一志望の大学を不合格となり、自分への自信を失ったまま大阪大学に入学しました。

ところが実際大学に入学して四年間を過ごしてみると、トップとの差、周りとの差なんていうものはなく、こつこつやっていたらちゃんと評価もしてもらえます。何より大切なのは日々の努力

を積み重ねることなのだ、あらためて実感しました。

みなさんも今行きたいと思っている志望校を高望みだなんて思わないで、必ず合格できると信じて、出来ることからワンステップずつ努力を重ねていってください。

大学の四年間は、大学生活という自由度の高い生活の中でもしっかりと勉学に励むことができ、着実に自分の中に知識・経験を蓄えることが出来た充実の四年間でした。学部を代表して海外研修に行ったり、自分の研究を学会で発表したり、新しい世界を見ることも出来ました。さら

**75歳で大学を卒業
山田(赤穂)孝子さん(高校10回生)**

高校を卒業する間に、親から、仕事を止めなければならなくなったので就職してくれと急に言われ、その時、すでに本人に全く説明せず勝手に就職先を決めていたのです。あまりのひびきに拒否し続けましたが、何ともなりませんでしたが、ずっと大学へ行きたい、大学へ行きたいと思いついていました。そこは一年で辞め、看護学校に三年、保健婦学校に一年通って、看護師、保健師、保育士、養護教諭などの資格を取り、養護教諭として定年まで働きました。その間、大

学の通信教育も受けましたが、仕事をしながら通信教育で勉強するのは、私にとってはとても大変で無理でした。でも単位は少し取りました。

私は、息子と二人暮らしです。(夫は息子が9歳の時亡くなりました。)ずっと働きながら一人でもかまやうてきました。しかし息子が発達障がいだということが、本人が33歳の時に分かりました。



に大学院での二年間はアカデミックの世界にもっと足を踏み入れて、国際学会発表や海外留学、論文執筆にチャレンジしようと思っています。せっかくの二年間、楽しんで楽しんで学びたいと思います!

息子の面倒を一生みました。

自分で調べて、愛知学院大学法学部の社会人入学に合格し、四年間通い卒業しました。四年で卒業できる人は70%位なので、70歳代で四年で卒業し、自分で書くのも何ですが、成績もよかったです。卒業式に特別表彰を受けました。

ある先生は、「よく頑張ったね。偉かった偉かった。」と言つてほめて下さいました。私は、苦しい時、悲しい時「よく頑張ったね。偉かった偉かった」と自分で自分に言つてほめています。

大学でいろいろなことを勉強し、勉強することの楽しさを知りました。これからも、いろいろ勉強したいと思います。

**8月11日
北斗祭**

平成27年8月11日(火)に、第74回北斗祭が行われました。北斗祭は城陵歌(大会の歌)の「作詩」者吉田美一氏、作曲者小松孝蔵氏を偲び、毎年8月11日(吉田氏の命日)に開催されています。従前は中津川市坂下の吉田氏の墓前で開催されていましたが、現校舎の落成以後は、校舎正面の「城陵広場」の「城陵歌の碑」の前で行われています。

び学校の共催で行われました。当日は、高木良直(高校34回生)同窓会副会長をはじめ、29名の参加がありました。開式の後、吉田、小松両氏に対し、全員で黙祷を捧げました。可知浪雄(高校11回生)実行委員の指揮で校歌を斉唱した後、恵那高等学校(谷口陽一郎(高校27回生)校長と恵那高等学校同窓会高木良直副会長のあいさつがあり、続

いて水野正敏(高校29回生)岐阜県議会議員のあいさつがありました。その後、山田忠(高校13回生)実行委員による指揮で城陵歌を斉唱しました。当日は暑い中でしたが厳粛な雰囲気が進められました。その後、昼食・懇談会が行われ、北斗祭の沿革や思い出が披露されるなど、楽しい会となりました。今年も8月11日(木)に開催予定ですので、同窓生の皆様のご参加をお願いいたします。

城陵歌(大会の歌)の誕生

作詩者・吉田美一氏(中学1回生)は、明治40(1907)年4月9日、旧恵那郡坂下町外洞に住む与四郎、そよさん夫婦の長男として誕生。坂下小学校高等科2年を卒業の年、大正11(1922)年開校の恵那中学校を受験し34人中1番で合格。在学中は秀才の誉れ高く、美文調の格調高い文章や詩作を得意とし、5年生(1926)の秋に「城陵歌」(大会の歌)を作詩した。

の管理者として岡谷・名古屋間を往復しており、孝蔵さんに恵那中受験を勧め、孝蔵さんは、それにこたえ見事合格した。恵那中卒業後は上田蚕糸専門学校(現・信州大学繊維学部)に進み、卒業後は、製糸、印刷業などで活躍したが、昭和32(1957)年8月15日に逝去。享年49歳。

卒業後、第一高等学校、東京帝大経済学部へ進んだ。吉田さんが大学を卒業して帰郷するとき、外洞の町民たちは「オラが町の学士様」を歓迎するため水坂に大アーチを造って出迎えたという。職難時代。このとき同級生・水野孝次さん(瑞浪市出身)の世話で、無事大阪・堺化学に就職したが、昭和10年に結核を発病、昭和16(1941)年8月11日逝去。享年35歳の若さだった。

孝蔵さんはハーモニカが得意で、上田蚕糸時代もバンド・リーダーとして活躍したという。恵那中5年生の秋、級友らの注文にこたえて名曲「城陵歌」を完成し、大正15(1926)年10月24日の運動会で発表。以来80年近く、恵那中・恵那高同窓生の「心の歌」として愛されてきた。

作曲者・小松孝蔵氏(中学1回生)は、明治41(1908)年9月24日、長野県岡谷市に住む八百蔵、さとさん夫婦の次男として誕生。当時、岡谷は生糸の製糸で栄えた町。八百蔵さんは製糸業・小松組の役員で、名古屋大曾根工場

の役員で、名古屋大曾根工場

2016年度入試 国公立大学 合格者数

2016.3.24現在

合格した主な大学

| | | | | | |
|-------|-------------|----|---------|--------------|----|
| 京都大学 | 理学部 | 1名 | 名古屋市立大学 | 薬学部・薬学科 | 1名 |
| 北海道大学 | 文学部・人文科学 | 1名 | 筑波大学 | 情報学群・情報科学類 | 1名 |
| 名古屋大学 | 医学部・保健／放射線 | 1名 | 横浜国立大学 | 教育人間科学部・学校教育 | 1名 |
| 名古屋大学 | 医学部・保健／検査技術 | 1名 | 名古屋工業大学 | 工学部・生命・応用化学 | 1名 |
| 名古屋大学 | 医学部・保健／看護 | 1名 | 名古屋工業大学 | 工学部・物理工 | 1名 |
| 名古屋大学 | 工学部・物理工 | 2名 | 名古屋工業大学 | 工学部・創造工学 | 2名 |
| 名古屋大学 | 工学部・環境土木 | 1名 | 広島大学 | 理学部・化学 | 1名 |
| 名古屋大学 | 情報文化学部・自然情報 | 1名 | 早稲田大学 | 基幹理工学部・学系Ⅱ | 1名 |
| 名古屋大学 | 農学部・生物環境科学 | 1名 | 早稲田大学 | 創造理工学部・建築 | 1名 |
| 名古屋大学 | 法学部・法律政治 | 1名 | 慶應義塾大学 | 理工学部・学問Ⅰ | 1名 |

合格した国公立大学

| 大学名 | 合格者数 | 大学名 | 合格者数 | 大学名 | 合格者数 | 大学名 | 合格者数 |
|--------|------|---------|------|----------|------|----------|------|
| 北海道大学 | 1 | 信州大学 | 7 | 熊本大学 | 1 | 京都市立芸術大学 | 1 |
| 茨城大学 | 1 | 静岡大学 | 3 | 鹿児島大学 | 1 | 神戸市外国語大学 | 3 |
| 筑波大学 | 1 | 名古屋大学 | 9 | 琉球大学 | 1 | 兵庫県立大学 | 1 |
| 宇都宮大学 | 2 | 名古屋工業大学 | 4 | 前橋工科大学 | 1 | 岡山県立大学 | 1 |
| 群馬大学 | 1 | 岐阜大学 | 9 | 高崎経済大学 | 2 | 島根県立大学 | 1 |
| 東京学芸大学 | 1 | 滋賀大学 | 1 | 首都大学東京大学 | 1 | 県立広島大学 | 1 |
| 横浜国立大学 | 1 | 京都大学 | 1 | 富山県立大学 | 3 | 福山市立大学 | 1 |
| 新潟大学 | 3 | 奈良教育大学 | 1 | 福井県立大学 | 1 | 山口東京理科大学 | 1 |
| 富山大学 | 2 | 奈良女子大学 | 2 | 山梨県立大学 | 1 | | |
| 金沢大学 | 5 | 広島大学 | 1 | 静岡県立大学 | 1 | | |
| 福井大学 | 4 | 香川大学 | 1 | 愛知県立大学 | 1 | | |
| 山梨大学 | 1 | 高知大学 | 1 | 名古屋市立大学 | 3 | 合計 | 90 |

平成27年6月14日（日）16時から、土岐市「サンモールSC2階 竜庵」において、「第23回土岐市城陵会総会」が開催されました。平成26年度の会務報告・会計報告・監査報告の後、次期役員及び理事が選出されました。本会からは阿部会長、中津川恵那高会からは勝会長、瑞浪恵窓会からは水野会長、名古屋恵那高会からは鮎澤会長、また、水野県議会議員、谷口校長が来賓として出席されました。来賓祝辞の後、「白い大陸南極」という演題で、元南極観測越冬隊員の鈴木剛彦氏（高12回）による講演が行われました。ご自身が参加された南極観測越冬隊員



土岐市城陵会総会

各支部各回同窓会あり

としての体験談をユーモア交えてお話しいただきました。懇親会は、37名の参加があり、終始和やかに会が進み、互いに懇親を深めました。最後に全員で城陵歌を合唱し閉会となりました。

土岐市恵中会 （現土岐市城陵会）の思い出

中学8回生 田中鈴夫
《同窓会の発足》

はつきりした記憶はないが、私は昭和51年に教職を退職しているため、それ以後だったと思う。それまでは駄知、下石、妻木、泉、土岐津がそれぞれやっていたらしい。

そこで駄知の塚本史郎君（6回生）塚本市長の叔父、下石の古林幸夫君（6回生）、妻木の酒井薫君（8回生）、土岐津の河村儀政君（8回生）と泉の私田中鈴夫（8回生）のメンバーが相談して「土岐市恵中会」が発足した。8回生以前の人たちはほとんどおられず連絡網がなかったので連絡が出来なかった。当時は「瑞浪市」に続いての発足で、恵那地方にはほとんどなかった。

《通学の思い出》

回顧してみると私が入学したのは昭和3年4月、朝

は5時58分の混合列車(貨物列車の中に客車2両連結)で登校した。榎ヶ根トンネルの入り口で必ず止まり、車掌が降りてブレーキを掛けて、それから下がって大井駅に到着したものだ。そして10月からは次の列車、土岐津発7時5分で5年間繰り返した。恵那中は2両とも自由、中津商業は前、中津高女は後ろの車両で男女別で厳しかった。服装は中津高女は制服、恵那実科女は着物に袴で東野村の生徒が通っていくのが悩ましかった。恵那実科女は行ったことはなかったが、長島小学校の傍らにあったようだ。

【景気】

当時は不景気の時代で、昭和7、8年頃は特にひどく、我々も150名入学して3学級であったが、卒業の時には100名になり2学級に減った。約三分の一の50名が退学してしまった。私も4年生の1学期で退学したが、学校から奨学資金を借りてやるのと事で、復学して一年遅れて卒業した。

【伊藤律君の想い出】

あの共産党の大立者伊藤律君は2級上の瑞浪市土岐町出身で、一緒に通学して可愛がってもらった。彼は平均点98点取ったので開校以来の秀才といわれた。身体は小さいが体中が知恵のかたまり感があった。

当時の成績は点数制で、各学年のトップは90点以上

であったから、伊藤律君は4年生で第一高等学校(現在の東京大学)へ入学し、徳田球一のおつくる日本共産党に入党し、彼につづく大物になって大活躍をなし、後に中国に渡り彼の地で最後は幽閉されて帰国した。

平成のはじめ頃、鬼岩で我々同級生の「恵八会」(恵中8回卒業生)をやったとき、偶然同日同場所「恵五会」をやっており、卒業当時の恩師『今野義三郎先生』が郷里の岡山県から招かれており、その席へ伊藤律君も東京から来ておられたが放心状態であった。

会って昔話をしたがあまり記憶がないようであった。今野先生には陶祖の抹茶茶碗をおみやげに差し上げたが大変喜ばれたことを覚えていた。

【学校は厳しくよかった】

当時は中津商業、多治見工業より上に見られ評判が良かった。在学当時に校歌ができ、当時の上級学校の入学成績も岐阜県下でも上位であった。

私の卒業当時の昭和9年頃は不景気で就職難でもあって学校教師の志望が多く、私も岐阜師範の二部へ行った。受験者は県下で400名、合格者は40名、競争率10倍で合格率は恵那中学校は県下第2位であった。卒業後はそれぞれ各地域の学校の中心となってやってきた。現在は卒業生が各界

各層で活躍しておられるようで誠に結構なことである。

【後輩諸兄に期待】

どうか城陵会を通じて伝統ある母校の想い出を大切に、いつまでも健やかに頑張っていたいただきたいと願っている。

◎数年前、先生がお元気な頃、ご自宅を訪問した際いただいた先生の手記です。
田中鈴夫先生は平成24年3月逝去されました。合掌
平成27年6月
土岐市城陵会 会長
戸谷 仁彦

【東京城陵会総会】

平成27年5月24日(日)11時30分から、東京のホテルグランパシフィックLEDAIBAにて「東京城陵会第18回城陵祭」が開催されました。出席者は79名にも上りました。参加者全員で記念撮影の後、森岡俊雄さんの司会で会がスタートし、物故者への黙祷、



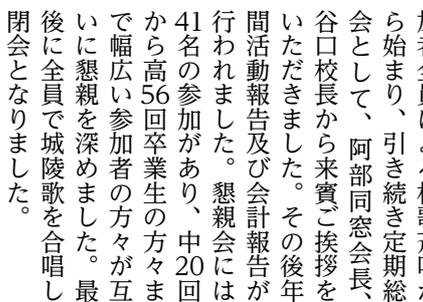
会長の伊藤和徳さんのあいさつの後、阿部同窓会会長、谷口校長、市川前同窓会会長による祝辞が寄せられました。

続いて、瑞浪高等学校同窓会東京支部長の中島千尋会長様はじめご臨席の来賓の紹介が行われました。乾杯の後、和やかな歓談が続きました。途中には高校9回生大久保もとさんのシャンソンやカンツォーネなどの歌が披露されました。

恒例の「お楽しみ 郷土名産品くじ引き抽選会」も大いに盛り上がりました。その後中学19回生間誠三さんの指揮で校歌を全員で斉唱し、伊藤忠生東京城陵会元会長の閉会の言葉で、盛会の中閉会となりました。

【中津川恵那高会(恵蘇会)総会】

平成27年11月22日(日)午後6時から、中津川市「勝宗」において、「第62回中津川恵那高会(恵蘇会)総会」が開催されました。参加者全員による校歌斉唱から始まり、引き続き定期総会として、阿部同窓会会長、谷口校長から来賓、ご挨拶をいただきました。その後年間活動報告及び会計報告が行われました。懇親会には41名の参加があり、中20回から高56回卒業生の方々が互いに懇親を深めました。最後に全員で城陵歌を合唱し閉会となりました。



【名古屋恵那高会総会】

平成27年11月28日(土)午前11時30分から、名古屋栄「東急REIホテル」において、「第59回名古屋恵那高会総会」が開催されました。開会にあたり、物故者に黙祷を捧げた後、参加者全員により校歌を斉唱しました。引き続き定期総会として、会長あいさつ、会計報告、監査報告、役員選任が行われ、続いて阿部同窓会会長、谷口校長から来賓ごあいさつをいただきました。その後余興として、マンドリンアンサンブルこまくさの演奏とベリーダンス

が披露されました。懇親会には中津川恵那高会の勝彰様の乾杯で始まり、中18回から高42回卒業生の方々まで幅広い56名の参加者の方々が互いに懇親を深めました。最後に全員で城陵歌を合唱し閉会となりました。

【東京城陵会月例会】

平成28年1月6日「東京城陵会」月例会は、第379回になりました。諸先輩方の努力により第一回から今まで一度も欠かすことなく開催しており、これは「継続は力なり」のごとき大変に大切なことであり、諸先輩に感謝しております。恵那中、高校の卒業生の皆さんが集まり、昼の会食をともし、飲み食いし、最近の話題、郷里の情報を語り合いながら過ごすコミュニケーションの場であると考えております。東京城陵会には、東京およびその周辺に住んでいる卒業生の皆さんで作っており、誰でも自由参加ができ、出欠も自由で当日の突然参加も大歓迎です。参加者は平均15名ぐらいいで和やかに開催しております。場所は銀座7丁目にあるレストラン「ライオン」の2階が定例会の場所です。第1回よりこの場所です。もう35年近くになります。当日会費は男性3,000円、女性2,000円で指定日(半年ごと)に決めております。



12時〜14時まで。また心のオアシスとして毎月欠かさず出席される先輩もおり、現在まで脈々と続いている会です。また恵那からの皆さんも機会があれば是非、お立ち寄り戴ければ大歓迎です。東京城陵会 会長 伊藤和徳 連絡先046717713465 携帯0901266214861



瑞浪恵窓会総会

平成28年3月19日(土)午後6時から、瑞浪市窯業技術研究所において、瑞浪恵窓会総会が開催されました。平成27年度の事業報告、会計報告と、平成28年度の事業計画及び予算が承認されました。またご来賓の阿部同窓会長のご挨拶、谷口校長からは学校の様子についてお話をいただきました。その後、講演として、大湫病院院長、江口研様から「認知症の理解と予防」についてお話をいただきました。懇親会では幅広い参加者の方々が互いに懇親を深めました。

母校のイベント

※この紙面では、同窓会の各支部や学年同窓会の様子などを掲載しています。今年度開催予定の同窓会がありましたら、原稿と写真などを恵那高校内同窓会事務局(〒50917201・恵那市大井町1023番地の1)までお送りください。

2年生、沖縄に学ぶ 修学旅行(6〜7月)



本校の2年生が、6月30日から7月3日まで、3泊4日の日程で

沖縄に修学旅行に行きました。天候に恵まれ、予定通りの日程で、無事に修学旅行を終えることができました。初日は、「平和学習」をテーマに平和祈念資料館、ひめゆり資料館、糸数塚を見学しました。また、夜には、沖縄戦を体験された長田勝男さんのお話を聞きました。二日目には、「二人一人の知的好奇心を高める」をテーマに、グループ研修を行いました。総合学習で、半年以上にわたって調査・研究し、現地で検証するものです。事前にしっかりと学習してきたこともあり、とても有意義な研修になりました。三日目には、クラスごとで決めた体験学習などを行い、午後にはマリン研修を行いました。沖縄ならではの楽しさを体験することができ

「N響トップメンバーによる 金管五重奏&ピアノ スペシャルコンサート」 芸術鑑賞会(10月)



毎年、恵那文化センターにて、芸術鑑賞会が行われます。今年度は、N響トップメンバーによる金管五重奏&ピアノのスペシャルコンサートが開かれました。日本最高峰のオーケストラNHK交響楽団に所属する首席トランペット奏者、関山幸弘氏を中心としたN響トップメンバーによるスペシャルコンサートでした。関山氏は、国内外問わずコンクールで入賞し、N響首席奏者であると同時に、ソロやアンサンブル、後進の指導にも幅広く活躍しているらしいです。

当日は金管楽器とピアノ

先輩たちに学ぶ 職業講話(11月)



1年生対象に職業講話が行われました。医師、薬剤師、保育士、バ

イオ技術者、臨床心理士など、15講座20名の講師を恵那高校にお招きし、ご自分の職業について、どうしてその仕事を選んだか、どんな時にやりがいを感じるか、これから高校生としてやっていくべきこと、などの内容についてお話をいただきました。生徒は一人二講座を選択してお話を伺いました。講師の方々は、本校卒業生や地元の方が多く、たいへん熱心にお話をしてくださいました。生徒も熱心に聴講し、自分の進路を考えるために大いに参考になることができました。今後も生徒の希望を踏まえながら、多くの職業について、実践に即したお話が伺えるような企画を推進します。

「青色LEDの発明と 未来の光源」 SSH全校科学講演会(11月)

青色LEDの発明に対して、赤崎勇教授と天野浩教授が2014年にノーベル物理学賞を受賞されましたが、その両先生の指導を直接受けられて、現在も赤崎教授と名城大学と一緒に研究を遂行されている竹内哲也先生をお招きして、LED開発に携わったお話を伺いました。

竹内先生は、LEDの原理と作り方やノーベル賞授賞式の様子について、また半導体レーザとその応用例や青色面発光レーザについて、さらには生徒の皆さんへのアドバイスについて、熱心にお話しくださいました。また、生徒からの活発な質問にも的確にお答えいただいたり、非常に有意義な講演会となりました。

受験本番 大学入試センター試験(1月)

今年も恵那高校生226名が中京学院大学にてセンター試験を受験しました。試験前日には、在校生がサイエンスホールで城陵歌を高くらかに歌い、先輩を激励



しました。今年も天候こそ晴天でしたが、朝夕はしんと冷える空気が、受験生は寒さと緊張で引き締まった表情で会場に到着しました。同窓会から激励に送られたコアラのマーチ(コアラは木から落ちない)を1日目に、キックカット(きつと勝つぞ)を2日目に、教員から応援の言葉とともに受け取り、伝統を守る会から寄付された「頑張れ!!恵那高等学校」の垂れ幕の下を通過して試験会場に向かいました。

事務局より会員の皆様へ
1 本年度も皆様の温かいご支援のもと、城陵第16号を発行することができました。ことを衷心より御礼申し上げます。会員の皆様におかれましては、事務局あてに御消息をお知らせ願う用紙が同封されておりますが、お電話またはファックスでも結構ですので、異動がありました場合はご一報くださいますと幸いです。よろしくお申し込み申し上げます。
電話・ファックス 057312510253
2 本年度の同窓会総会・懇親会は5月21日(土)午後4時30分から、恵那峡グランドホテルにて行います。会員の皆様におかれましては、ぜひご出席いただきたく案内申し上げます。
なお、同窓会総会・懇親会は、毎年5月第3土曜日に恵那峡グランドホテルで開催することとなっております。